

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホーム 三木すみれ園	階数	地上3階
建設地	兵庫県三木市志染町青山7丁目1-1	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2024年2月14日
敷地面積	4,016 m ²	作成者	橋田智仁
建築面積	1,813 m ²	確認日	2024年2月15日
延床面積	4,758 m ²	確認者	橋田典博



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 計画建築の意匠・材料及び色彩等に配慮し、また敷地内及び道路・隣地境界沿いに来るだけ緑化を設け、周囲の建物や景観と調和のとれた違和感のない建物形状・配置とした。		その他 特になし
Q1 室内環境 外壁面はガラスウール入り、内壁は両面ボード二重張り、外部窓は複層ガラスで遮音性能を向上させ、また居室毎に空調及び換気を設け快適な室内温度を保てるよう配慮した。また居室のカーテンと各階にバルコニー及び	Q2 サービス性能 居室の有効面積は11.5m ² 確保し天井高さも2.5mとゆとりある広さと空間となるよう配慮した。また管理部門・共用部では情報通信関係がスムーズに対応できるよう実線の端末を適所に設置し、無線対応も可能なように館内にア	Q3 室外環境(敷地内) 建物高さを抑え勾配屋根にすることで周辺のまちなみや風景にバランスよく調和するように配慮した。また敷地内の空地に緑化を設け、車の駐車区画にもグラスパーキングを採用するなど舗装面積を少なくし地表面の温度上
LR1 エネルギー 空調設備として共用部に全熱交換器(ロスナイ)を採用し熱量削減に努めた。照明設備として全館にLED器具を採用しWC等には人感センサーを取付てエネルギー量削減に努めた。また空調機器にデマンド監視装置を設置し最大需要電力の抑制をする。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓には出来るだけ節水コマ付を使用し、また節水型便器を採用することで水資源保護に努めた。	LR3 敷地外環境 CO ₂ 排出量の減少、設備機器の騒音・振動抑制に努める。また日影規制を十分にクリアできるように建物計画をし近隣への日照阻害の抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される